



歌子名和方集
五

津田文庫
文庫 1
1627
5



歌々願

山城

新拾遺春下 八幡の原より春はたの半、谷らの川を 西園寺公道

八幡原

同

新勅撰秋下 紅のやぶの原のほとり紅葉をよみては 藤原伊光

新續古今秋 赤くは八幡のほとり紅葉をよみては 刑部卿頼朝

八幡山 神

同

至葉神祇 八幡山に紅葉をよみては 後醍醐天皇

新後拾遺神 八幡山に紅葉をよみては 後醍醐天皇

同 八幡山に紅葉をよみては 源家長朝臣

新續古今神 八幡山に紅葉をよみては 後鳥羽院

八幡

山城

新續古今雜 八幡の原に紅葉をよみては 清辨

山道

大和

後撰旅 八幡の原に紅葉をよみては 伊勢

山階時

同

拾遺哀傷 八幡の原に紅葉をよみては 光明皇后

山田原

伊勢

新古今夏 八幡の原に紅葉をよみては 西行

同秋下 八幡の原に紅葉をよみては 太上天皇

同神祇 八幡の原に紅葉をよみては 越前

後拾遺春 八幡の原に紅葉をよみては 西園寺公道

至葉賀 八幡の原に紅葉をよみては 順

風雅夏 八幡の原に紅葉をよみては 藤原憲朝

新續古今春 八幡の原に紅葉をよみては 後醍醐天皇

八幡

八幡

古今旅 八幡の原に紅葉をよみては 業平朝臣

後撰恋 八幡の原に紅葉をよみては 讀入不知

拾遺別 八幡の原に紅葉をよみては 讀入不知

千載雜下 八幡の原に紅葉をよみては 道円法師

後古今恋一

恋せんともなるを川乃八橋のりもと物さるはるか 讀人不知

玉葉旅

蜘蛛乃もてあやうに八橋をりくればけては後とよひの 室前院和

新拾遺旅

たひ衣を恋くさあや八橋は若のには神とおははけ 為家

新後古今旅

八橋をりかへてはひるもあはては道とまはさし 堀隆中書

山梨果

甲斐

續古今恋

是夢の山あり思ふにらるは後とよひとあはれなるを 讀人不知

八重山

相模

新千載籍

あま今都とこひおれ此国乃公を山にたをこそは 津守国量

八十湊

近江

玉葉旅

う海を漕ぐもあはれなるを八十湊にたはらひて 高市黒人

野例

河原

拾遺神樂哥

る成をなれはるひくふあはれは水とあはれひは 元捕

新勅撰雜曲

も恋をさるみはれはるあはれなるを水とあはれひは 後京極

續古今賀

清きる時ふを治のやとくしつるあはれなるを水とあはれひは 宮内卿永範

玉葉旅

たひ衣を恋くさあや八橋は若のには神とおははけ 安室門院家

風雅旅

我あはれなるを水とあはれなるを水とあはれなるを 讀人不知

同雜下

山井 同

志の山

山井

京所

恋せんともなるを川乃八橋のりもと物さるはるか 貫之

後撰雜一

恋せんともなるを川乃八橋のりもと物さるはるか 讀人不知

拾遺雜恋三

恋せんともなるを川乃八橋のりもと物さるはるか 貫之

後拾遺雜五

恋せんともなるを川乃八橋のりもと物さるはるか 伊勢大捕

同

恋せんともなるを川乃八橋のりもと物さるはるか 實方

千載冬

恋せんともなるを川乃八橋のりもと物さるはるか 藤原成家

新勅撰恋三

恋せんともなるを川乃八橋のりもと物さるはるか 京極前院

同雜二

恋せんともなるを川乃八橋のりもと物さるはるか 藤原親盛

同

恋せんともなるを川乃八橋のりもと物さるはるか 前大納言光頼

後撰撰雜下

恋せんともなるを川乃八橋のりもと物さるはるか 源光行

後古今大教

恋せんともなるを川乃八橋のりもと物さるはるか 崇徳院

同恋五

新院將納

後拾遺春

法下憲實

後撰夏

慈鎮

玉葉恋三

平貞時

續千載春下

清浦朝臣

風雅夏

西園寺宣

同恋二

大納言通方

新千載冬

定家

同恋五

同

新千載恋五

水橋院

新拾遺夏

法皇御製

同尺教

前權僧正

新續夏夏

高階宗成

同雜

寂真法師

古今序

邊江系女

同恋五

讀人不知

後撰恋

このれ

同

平貞丈

同雜一

讀人不知

金葉恋下

在書中

新勅撰旅

蓮生法師

同恋一

待賢院

後後撰恋

貞風

續拾遺恋

為世

同尺教

信実朝臣

新後撰恋

院大納言

玉葉恋一

藤原宗

同三

待賢院

新千載夏

前大納言

同恋二

前大納言

新千載夏

前大納言

同恋二

前大納言

後平載恋四 山の井乃清らあうをねむるひやしとけはるまのり 源邦長朝臣

同恋五 雲のしほそよの井れ水馬 娘みるるまことあり 平貞然

新千載恋三 花のしほさあうもあはれぬらうの波波とあはれと 壽成門院

新拾遺恋二 花のあうさあうの波の波とあはれとあはれとあはれと 養前政春

新續古今恋 見うふあうさあうの波の波とあはれとあはれとあはれと 平親清

同恋四 海うあうさあうの波の波とあはれとあはれとあはれと 養前政春

夫回野

新古今又 夫回野のあうさあうの波の波とあはれとあはれとあはれと 人磨

後後撰秋上 夫回野のあうさあうの波の波とあはれとあはれとあはれと 舜延法師

續拾遺冬 夫回野のあうさあうの波の波とあはれとあはれとあはれと 為家

玉葉夏 夫回野のあうさあうの波の波とあはれとあはれとあはれと 從位教良

同秋上 夫回野のあうさあうの波の波とあはれとあはれとあはれと 贈從三位為子

同冬 夫回野のあうさあうの波の波とあはれとあはれとあはれと 交前内大臣

同歳 夫回野のあうさあうの波の波とあはれとあはれとあはれと 新院御製

後後拾遺冬 夫回野のあうさあうの波の波とあはれとあはれとあはれと 藤原秀長

同冬 夫回野のあうさあうの波の波とあはれとあはれとあはれと 藤原基夏

同雜上 夫回野のあうさあうの波の波とあはれとあはれとあはれと 正三位隆教

新拾遺秋上 夫回野のあうさあうの波の波とあはれとあはれとあはれと 藤原長秀

新後拾遺秋下 夫回野のあうさあうの波の波とあはれとあはれとあはれと 為家

同冬 夫回野のあうさあうの波の波とあはれとあはれとあはれと 源高秀

同雜秋 夫回野のあうさあうの波の波とあはれとあはれとあはれと 源高秀

新後拾遺秋 夫回野のあうさあうの波の波とあはれとあはれとあはれと 權中納言

新古今旅 夫回野のあうさあうの波の波とあはれとあはれとあはれと 人磨

新勅撰糖 夫回野のあうさあうの波の波とあはれとあはれとあはれと 未勅

新千載旅 夫回野のあうさあうの波の波とあはれとあはれとあはれと 未勅

玉葉旅 夫回野のあうさあうの波の波とあはれとあはれとあはれと 未勅

新勅撰秋下 夫回野のあうさあうの波の波とあはれとあはれとあはれと 未勅

後拾遺春上 夫回野のあうさあうの波の波とあはれとあはれとあはれと 未勅

玉葉春上 夫回野のあうさあうの波の波とあはれとあはれとあはれと 未勅

同秋下 是のゆゑに神の御心を以て初めりしは、
新載秋下 秋のつらきとて、鹿のまき、
人丸 常盤宮
前太政大臣

植鴻

山城 宇治郡

金葉秋 宇治の河川にともなふ、
藤原基光 為通朝臣
新後撰春上 河原の御心、
前大権正 實

植雄山

同

續古今秋上 立のほつりて、
金道前太政 秋

玉葉秋下

後後撰秋上 武士の平氏、
永福内院

同秋

新拾遺夏 文和のとき、
前中納言 有
後昭憲院 備
白太政大臣

松尾 山神

同 葛野郡

後拾遺神祇 千五百、
源兼光

新古今賀

萬代を、
康資王母

續古今夏

年とて、
尊内親王 容

新後撰神祇

心とて、
大天皇

同神祇

真野 萩原

大和 添上郡

金葉秋

白若れ、
大貳長安

新古今秋上

とく、
藤内親家 配

新勅撰秋上

申とて、
藤原基綱

續拾遺志

我泪つ、
後醍醐院

新後撰志

地とて、
藤原顯仲

同秋上

同秋下

同雜中

風雅春上

風雅冬

新千載春上

新後拾遺春上

新續古今春

同冬

待兼山

攝津

詞花春

新古今夏

續後拾遺夏

新續古今恋

真野

池橋浦

大和道同名有

同旅

續古今恋五

新後古今雜

千載旋頭哥

新勅撰雜四

同

續後撰雜四

同

續後撰雜四

續拾遺恋五

新後撰恋四

續千載秋下

續後拾遺恋四

風雅夏

松入道まゝらじきを向ひひらきと暮立わろ権中納言長

妹う雅春向山の秋落り句みららの暮立くはた 讀人不知

花をまてむふる物まきれり此いふう上はう心向雲 僧正朝

こらくてとま向山にまはれ木まふあて暮ふひく人丸

共向のひくはれ暮をくして只振るまひ雪少かりひかり 鎌倉右大臣

新千載春まやりの雪まのまきと春向のひるの暮ふかひひかり 俊成

新後拾遺春春うすまたかひりしはまを向は松原の山はあふとくろ 清原深養父

新續古今春まゆの松原の山あふかりまはれぬふさく今をま死 土御門院

いつくふをいぬぬらんま向の松原あふまをくらじ 中園入道前太政大臣

ふかむとゆるま山のうさるあふりしひあをれをこころ、太皇太后宮後

ふ城ささひゆるま山乃郭ふらとあのみうに一髪をまきく周防内侍

續後拾遺夏ゆりこゆるま山の郭ふ今日と雲てやれんまもは 藤原頭繼朝

新續古今恋ふのめつるまぬれまてやゆるまやれや下なるまん 大納言成道

わさもふる神をちてまの浦はまきとまはれまふり人磨

ゆの浦は流乃継橋はまもまひつじとまをまつるま 俊三位經朝

舟まふまの浦ままふくまはれまはる流れつじ橋 権六納言嘉成

真向 池橋浦 入江 下総 若鋸郡 後教

久後しまは継橋路まはれまふまはるまも時てむうま 後教

ふまはれまの浦まを漕舟は舟今あまは波立らん 讀人不知

あまはるま若れ浦まのつじ橋はまはれまはるま 慈山

まあまはれまの浦まのつじ橋はまはれまはるま 前大政大臣

まあまはれまの浦まのつじ橋はまはれまはるま 土御門院

まあまはれまの浦まのつじ橋はまはれまはるま 定家

まあまはれまの浦まのつじ橋はまはれまはるま 醍醐入道前太

まあまはれまの浦まのつじ橋はまはれまはるま 政大臣女

まあまはれまの浦まのつじ橋はまはれまはるま 從三位藤原理

まあまはれまの浦まのつじ橋はまはれまはるま 前右衛門督兼

まあまはれまの浦まのつじ橋はまはれまはるま 贈從三位為子

まあまはれまの浦まのつじ橋はまはれまはるま 雅經

まあまはれまの浦まのつじ橋はまはれまはるま

まあまはれまの浦まのつじ橋はまはれまはるま

同恋三 新後撰 松嶋や秋のつらやうとてほのぼののまをささぐらん前内大臣
権律師公猷

同恋二 續後撰 松嶋やあきれたるのゆふふと波ささむらむらとてなごらるる
権納言吳雄

同恋一 浦風やよむらむらとて松嶋やあきれたるのゆふふと波ささむらむらとてなごらるる
権納言吳雄

同恋二 陰奥よあやとてゆふの松嶋のゆふふと波ささむらむらとてなごらるる
人丸

同恋三 深屋焼たるのゆふふと波ささむらむらとてなごらるる
今上御製

同恋一 松嶋やあきれたるのゆふふと波ささむらむらとてなごらるる
俊成

同恋二 やみらふとてゆふふと波ささむらむらとてなごらるる
蓮生法師

同恋三 つれをかく松嶋とてゆふふと波ささむらむらとてなごらるる
遊義門院

同恋一 俊あつとてゆふふと波ささむらむらとてなごらるる
清少納言

同恋二 松嶋のあきれたるのゆふふと波ささむらむらとてなごらるる
後京極

同恋三 松嶋やあきれたるのゆふふと波ささむらむらとてなごらるる
定家

同恋一 松嶋やあきれたるのゆふふと波ささむらむらとてなごらるる
正三位定家

同恋二 松嶋やあきれたるのゆふふと波ささむらむらとてなごらるる
前参議忠光

同恋三 松嶋やあきれたるのゆふふと波ささむらむらとてなごらるる
前大僧正実朝

同恋一 松嶋やあきれたるのゆふふと波ささむらむらとてなごらるる
権納言

同恋二 松嶋やあきれたるのゆふふと波ささむらむらとてなごらるる
権納言

同恋三 松嶋やあきれたるのゆふふと波ささむらむらとてなごらるる
権納言

同恋一 松嶋やあきれたるのゆふふと波ささむらむらとてなごらるる
権納言

同恋二 松嶋やあきれたるのゆふふと波ささむらむらとてなごらるる
権納言

同恋三 松嶋やあきれたるのゆふふと波ささむらむらとてなごらるる
権納言

同恋一 松嶋やあきれたるのゆふふと波ささむらむらとてなごらるる
権納言

同恋三 新後撰

同恋二 續後撰

同恋一 浦風

同恋二 陰奥

同恋三 深屋

同恋一 松嶋

同恋二 やみら

同恋三 つれを

同恋一 俊あ

同恋二 松嶋

同恋三 松嶋

同恋一 松嶋

同恋二 松嶋

同恋三 松嶋

同恋一 松嶋

同恋二 松嶋

同恋三 松嶋

同恋一 松嶋

同恋二 松嶋

同恋三 松嶋

同恋一 松嶋

松嶋や秋のつらやうとてほのぼののまをささぐらん前内大臣

松嶋やあきれたるのゆふふと波ささむらむらとてなごらるる

浦風やよむらむらとて松嶋やあきれたるのゆふふと波ささむらむらとてなごらるる

陰奥よあやとてゆふの松嶋のゆふふと波ささむらむらとてなごらるる

深屋焼たるのゆふふと波ささむらむらとてなごらるる

松嶋やあきれたるのゆふふと波ささむらむらとてなごらるる

やみらふとてゆふふと波ささむらむらとてなごらるる

つれをかく松嶋とてゆふふと波ささむらむらとてなごらるる

俊あつとてゆふふと波ささむらむらとてなごらるる

松嶋のあきれたるのゆふふと波ささむらむらとてなごらるる

松嶋やあきれたるのゆふふと波ささむらむらとてなごらるる

松嶋やあきれたるのゆふふと波ささむらむらとてなごらるる

松嶋やあきれたるのゆふふと波ささむらむらとてなごらるる

松嶋やあきれたるのゆふふと波ささむらむらとてなごらるる

松嶋やあきれたるのゆふふと波ささむらむらとてなごらるる

松嶋やあきれたるのゆふふと波ささむらむらとてなごらるる

松嶋やあきれたるのゆふふと波ささむらむらとてなごらるる

松嶋やあきれたるのゆふふと波ささむらむらとてなごらるる

松嶋やあきれたるのゆふふと波ささむらむらとてなごらるる

松嶋やあきれたるのゆふふと波ささむらむらとてなごらるる

松嶋やあきれたるのゆふふと波ささむらむらとてなごらるる

前内大臣

権律師公猷

権納言吳雄

人丸

今上御製

俊成

蓮生法師

遊義門院

清少納言

後京極

定家

正三位定家

前参議忠光

前大僧正実朝

権納言

権納言

権納言

権納言

権納言

権納言

権納言

後撰雜

十載冬

新勅撰雜

續後撰冬

玉葉恋三

同雜一

新續古今春

同雜一

風雅賀

風雅秋上

同秋中

新古今負

時の院の中鴻松とまうりてお付ゆりきる

素性法師

源昭法師

祝部成茂

藤原光俊

為家

源俊平

後醍醐院

丹波 兼田郡

備中 正三社隆博

村雨の中ふれり雲雪ふれ日すれぬ山院御哥

松升 伏見院

同 或云丹波

新續古今賀十海りねた笑ぬりし松山の橋をくさる

待乳山河 紀伊 下総有同名為大智國

吉木道入立ま去山とより重し仍紀列に載之

後撰雜 拾遺恋三 新古今秋上 同恋三 同雜上 後古今夏 同冬 同恋二 新古今春上

松帆浦 漢路

新勅撰恋三

松帆の浦ぬきく火焼やもほの力もあらは 定家

天曆寺

知家

鎌倉大目

前賢後進

松賀浦

讚岐

後拾遺別
同別返
玉葉旅

松山の松乃浦風吹よせんひろひそ志のへいひの真 中納言是頼
あゆめをよき舟りともあなほてふまきかき松浦波 源光成
松浦浦はまりの旗し実地ともふとさうらひの舟はつふ 從正行能

松山

阿野郡

後拾遺別
千載賀

松山の松乃浦風吹よせんひろひそ志のへいひの真 中納言是頼
あゆめをよき舟りともあなほてふまきかき松浦波 源光成

新古今雜中
新後拾遺夏

あゆめをよき舟りともあなほてふまきかき松浦波 源光成

松浦 沖海河山

肥前 松浦郡

千載恋四
新古今別

本男うらひは松浦波よき舟りともあなほてふまきかき松浦波 源光成

新勅撰雜四
後後撰恋五

あゆめをよき舟りともあなほてふまきかき松浦波 源光成

後古今雜中
玉葉春上

あゆめをよき舟りともあなほてふまきかき松浦波 源光成

同娘

あゆめをよき舟りともあなほてふまきかき松浦波 源光成

同難

あゆめをよき舟りともあなほてふまきかき松浦波 源光成

後後拾遺夏
風雅春上

あゆめをよき舟りともあなほてふまきかき松浦波 源光成

新載秋上

あゆめをよき舟りともあなほてふまきかき松浦波 源光成

同娘

あゆめをよき舟りともあなほてふまきかき松浦波 源光成

同恋二

あゆめをよき舟りともあなほてふまきかき松浦波 源光成

新拾遺雜中

あゆめをよき舟りともあなほてふまきかき松浦波 源光成

新後拾遺夏

あゆめをよき舟りともあなほてふまきかき松浦波 源光成

新續古今旅

あゆめをよき舟りともあなほてふまきかき松浦波 源光成

同恋三

あゆめをよき舟りともあなほてふまきかき松浦波 源光成

金葉冬

あゆめをよき舟りともあなほてふまきかき松浦波 源光成

後拾遺恋一
新拾遺恋二

錦木たてかきあゆめ舟りともあなほてふまきかき松浦波 源光成

狭布

陸奥

氣文社

大隅

千載秋上 秋の心守るゝお社の下周は三々おあてれるなり 持賢内院堀
 新古今夏 秋らるゝ氣文社之風りふたぐ 煙火酒の家や下兼藤原 攝政大政大臣
 續古今夏 夕涼む力所むらり成ふなり秋の心守るゝの下周 從三位成実
 同秋下 乃るまゝ大坂のひまをり 阿蘇の氣文社社の心守るゝ 左近將教長
 玉垂秋下 乃るまゝ大坂のひまをり 阿蘇の氣文社社の心守るゝ 共部卿有教
 新古今春 後よいとうまゝなりととて春城守の社の下なる 前大納言重實

船窓野

山城

拾遺雜秋 船窓乃野中ふたなるお船花のつゝお金おしとるゝ 讀人不知
 名融院位とるゝ行て後舟窓の目一 讀ひまゝなり
 まつゝとして船りなまゝなり

新古今雜上 後より若るゝとお船りなまゝなり 讀ひまゝなり 讀人不知
 玉垂雜四 舟窓乃るゝお船りなまゝなり 讀ひまゝなり 西行

伏見

同 宇治郡

後撰雜四 伏見乃るゝお船りなまゝなり 讀ひまゝなり 讀人不知
 同 伏見乃るゝお船りなまゝなり 讀ひまゝなり 讀人不知

同 伏見乃るゝお船りなまゝなり 讀ひまゝなり 讀人不知
 同 伏見乃るゝお船りなまゝなり 讀ひまゝなり 讀人不知

同 伏見乃るゝお船りなまゝなり 讀ひまゝなり 讀人不知
 同 伏見乃るゝお船りなまゝなり 讀ひまゝなり 讀人不知

同 伏見乃るゝお船りなまゝなり 讀ひまゝなり 讀人不知
 同 伏見乃るゝお船りなまゝなり 讀ひまゝなり 讀人不知

同 伏見乃るゝお船りなまゝなり 讀ひまゝなり 讀人不知
 同 伏見乃るゝお船りなまゝなり 讀ひまゝなり 讀人不知

同 伏見乃るゝお船りなまゝなり 讀ひまゝなり 讀人不知
 同 伏見乃るゝお船りなまゝなり 讀ひまゝなり 讀人不知

同 伏見乃るゝお船りなまゝなり 讀ひまゝなり 讀人不知
 同 伏見乃るゝお船りなまゝなり 讀ひまゝなり 讀人不知

同 伏見乃るゝお船りなまゝなり 讀ひまゝなり 讀人不知
 同 伏見乃るゝお船りなまゝなり 讀ひまゝなり 讀人不知

同 伏見乃るゝお船りなまゝなり 讀ひまゝなり 讀人不知
 同 伏見乃るゝお船りなまゝなり 讀ひまゝなり 讀人不知

同 伏見乃るゝお船りなまゝなり 讀ひまゝなり 讀人不知
 同 伏見乃るゝお船りなまゝなり 讀ひまゝなり 讀人不知

同 伏見乃るゝお船りなまゝなり 讀ひまゝなり 讀人不知
 同 伏見乃るゝお船りなまゝなり 讀ひまゝなり 讀人不知

同 伏見乃るゝお船りなまゝなり 讀ひまゝなり 讀人不知
 同 伏見乃るゝお船りなまゝなり 讀ひまゝなり 讀人不知

同 伏見乃るゝお船りなまゝなり 讀ひまゝなり 讀人不知
 同 伏見乃るゝお船りなまゝなり 讀ひまゝなり 讀人不知

同 伏見乃るゝお船りなまゝなり 讀ひまゝなり 讀人不知
 同 伏見乃るゝお船りなまゝなり 讀ひまゝなり 讀人不知

同 伏見乃るゝお船りなまゝなり 讀ひまゝなり 讀人不知
 同 伏見乃るゝお船りなまゝなり 讀ひまゝなり 讀人不知

同遊

拾遺夏

千載秋

同表傷

新古今秋

同

同秋下

同恋五

後古今秋

同

同

同冬

新後撰天教

玉葉秋下

同雜曲

同

同

續千載秋

同

同冬

同雜

風雅雜下

新千載秋上

同雜上

同哀傷

同

新拾遺秋上

同

同雜上

新續古今秋上

新古今秋下

野さかひのうらふとてあそぶ年つん解まらぬやのちとて流し人不知

夕されし野の秋風あめりて鶉さかひの海草はと 俊成 後人不知

中しとく昔と志のふしのこころはなれても海草の山や 法眼長真

海草は家のまじりては葉りまて里をうれは秋をいなり 務政大政大臣

海草は里の秋をいなりま住こもれは野への秋をも 通具

秋をうらふとてあそぶ年つん解まらぬやのちとて流し人不知 慈田

心分る海草は秋の鳥さかひのめし葉もこころのうらや 家隆

海草は海草はとてあそぶ年つん解まらぬやのちとて流し人不知 土山門院

海草は山の秋をいなりま住こもれは野への秋をも 寂超法師

海草は山に秋をいなりま住こもれは野への秋をも 家隆

とてあそぶ年つん解まらぬやのちとて流し人不知 為氏

法ひとくよ此葉りて海草は家のまじりては葉りまて里をうれは秋をいなり 法下公治

るまにそよふ秋をいなりま住こもれは野への秋をも 前関白大政

去年の秋をいなりま住こもれは野への秋をも 院淨教

二年の秋をいなりま住こもれは野への秋をも 前大納言為兼

海草は山に秋をいなりま住こもれは野への秋をも 前中納言為兼

海草は山に秋をいなりま住こもれは野への秋をも 少将内侍

海草は山に秋をいなりま住こもれは野への秋をも 雅經

海草は山に秋をいなりま住こもれは野への秋をも 前關東大官

仕あそぶ年つん解まらぬやのちとて流し人不知 民部卿安教

海草の海草はとてあそぶ年つん解まらぬやのちとて流し人不知 贈後二位為子

風をうらふとてあそぶ年つん解まらぬやのちとて流し人不知 式部恒明

海草は山に秋をいなりま住こもれは野への秋をも 前大僧正守兼

海草は山に秋をいなりま住こもれは野への秋をも 右近衛將道

とてあそぶ年つん解まらぬやのちとて流し人不知 伏見院

鶉さかひの海草はとてあそぶ年つん解まらぬやのちとて流し人不知 定家

海草は山に秋をいなりま住こもれは野への秋をも 權中納言宗經

海草は山に秋をいなりま住こもれは野への秋をも 後京極

海草は山に秋をいなりま住こもれは野への秋をも 無品親王

海草は山に秋をいなりま住こもれは野への秋をも 家隆

古河志

大和

古今雜歌

新古今夏

續後撰春

續拾遺夏

同恋五

新撰古今

新撰古今神祇

古今雜上

新撰後夏

續後撰春中

同秋下

新撰古今春

古今別

同恋四

後撰春中

後撰秋下

同恋一

拾遺春

千載夏

新古今春上

同

同冬

同

同

同恋一

同

同

同

同

同

同

同

同

同

御津川た河のよこむき枝舟をてすもきこん二平の枝讀ふ不知
源とさ枝舟ゆりて御津川た河せの枝乃あつたけ 有家

其月面をたりのよみ火越て波男をせば二りし枝 寂蓮
侍從雅有

年へおきたりゆよまき此のいつく今もあひいん 前納言
中納言為藤

藤原都 同
新撰古今神祇 新撰古今神祇のまきこむたを氣あし可侍雅有
前大政大臣

古柄小野 同
讀人不知

水か月のまきまきいん 夕立乃た柄をれ、橋のあつたけ
覺成法師 舊中納言長方

物おるるあつたけのまきあつたけの道はあつたけ
藤原教雅
後集院

あつたけの御津川た河のよこむき枝舟をてすもきこん二平の枝
兼徳法師

石上ゆめの御津川た河のよこむき枝舟をてすもきこん二平の枝
貫之

石上ゆめの御津川た河のよこむき枝舟をてすもきこん二平の枝
僧止遍昭 有原元方

石上ゆめの御津川た河のよこむき枝舟をてすもきこん二平の枝
讀人不知

石上ゆめの御津川た河のよこむき枝舟をてすもきこん二平の枝
同

石上ゆめの御津川た河のよこむき枝舟をてすもきこん二平の枝
藤原定通

石上ゆめの御津川た河のよこむき枝舟をてすもきこん二平の枝
右大臣實通
俊成

石上ゆめの御津川た河のよこむき枝舟をてすもきこん二平の枝
長方

石上ゆめの御津川た河のよこむき枝舟をてすもきこん二平の枝
攝政大臣
人丸

石上ゆめの御津川た河のよこむき枝舟をてすもきこん二平の枝
攝政大臣
御世子至

新古今集秋下

同冬

同恋三

同恋四

後後撰春上

同夏

同恋五

同雜上

同雜中

同雜下

後後撰雜下

後古今春上

同冬

同

同神祇

續撰春上

同

同夏

同秋上

同雜上

新後撰春上

同

同春下

同秋上

同恋六

玉葉秋下

同

同雜一

續千載春

同夏

同冬

く年々梅子の津枝樹成つて雪をばおまひにけり初まへ中宮但馬

おまひの梅の津枝樹成つて雪をばおまひにけり初まへ中宮但馬

下おのゝいりて梅の思ふをひらけたるをわびつ舟 前納言長方

我のいよあて梅の思ふをひらけたるをわびつ舟 鎌倉右大臣

おきりて梅の思ふをひらけたるをわびつ舟 入道前撰院

今よ又お月さぬらしてお上梅の思ふをひらけたるをわびつ舟 在朝兼基氏

お上梅の思ふをひらけたるをわびつ舟 高陽院 木綿

秋の梅の思ふをひらけたるをわびつ舟 藤原信実

あはれみて梅の思ふをひらけたるをわびつ舟 姓喜御前

お上梅の思ふをひらけたるをわびつ舟 權僧正田経

お上梅の思ふをひらけたるをわびつ舟 躬信

あはれみて梅の思ふをひらけたるをわびつ舟 藤原隆信

お上梅の思ふをひらけたるをわびつ舟 兵部卿隆親

お上梅の思ふをひらけたるをわびつ舟 大宰権帥

お上梅の思ふをひらけたるをわびつ舟 経家

お上梅の思ふをひらけたるをわびつ舟 源具親

お上梅の思ふをひらけたるをわびつ舟 前内大臣

お上梅の思ふをひらけたるをわびつ舟 也冬 順徳院

お上梅の思ふをひらけたるをわびつ舟 前太納言 頼

お上梅の思ふをひらけたるをわびつ舟 前内大臣 基

お上梅の思ふをひらけたるをわびつ舟 後撰院

お上梅の思ふをひらけたるをわびつ舟 弁内侍

お上梅の思ふをひらけたるをわびつ舟 定家

お上梅の思ふをひらけたるをわびつ舟 權中納言 雄

お上梅の思ふをひらけたるをわびつ舟 兵部卿隆親

お上梅の思ふをひらけたるをわびつ舟 寂庵法師

お上梅の思ふをひらけたるをわびつ舟 在朝兼基氏

お上梅の思ふをひらけたるをわびつ舟 慈鎮

お上梅の思ふをひらけたるをわびつ舟 俊成女

お上梅の思ふをひらけたるをわびつ舟 入道兼政直

お上梅の思ふをひらけたるをわびつ舟 入江宗秀

お上梅の思ふをひらけたるをわびつ舟 津守国夏

新古今集

〇七五

新撰古今雜 沖つち吹井乃浦水立波のなほふらや我らの山源宗于

新撰古今雜 立浪の言ふおとし沖はを吹井乃浦水立波のなほふらや我らの山源宗于

同雑中 昔より波満く志まつた吹井乃浦水立波のなほふらや我らの山源宗于

新撰古今雜 づふもん我の吹井乃浦水立波のなほふらや我らの山源宗于

二身心 山浦海

伊勢 権者同名

金葉集 むらむら二身心の山浦海なるうらなひの吹井乃浦水立波のなほふらや我らの山源宗于

同雑 玉くまの二身心の山浦海なるうらなひの吹井乃浦水立波のなほふらや我らの山源宗于

雑言恋三 吹井乃浦水立波のなほふらや我らの山源宗于

新撰古今雜 我の吹井乃浦水立波のなほふらや我らの山源宗于

新撰古今雜 二身心の山浦海なるうらなひの吹井乃浦水立波のなほふらや我らの山源宗于

二村山

三河

後撰恋三 吹井乃浦水立波のなほふらや我らの山源宗于

後撰恋三 唐の吹井乃浦水立波のなほふらや我らの山源宗于

詞花秋 吹井乃浦水立波のなほふらや我らの山源宗于

十載夏 吹井乃浦水立波のなほふらや我らの山源宗于

同 吹井乃浦水立波のなほふらや我らの山源宗于

同 吹井乃浦水立波のなほふらや我らの山源宗于

同 吹井乃浦水立波のなほふらや我らの山源宗于

富士 山根 川 鳴澤

駿河

古今恋 吹井乃浦水立波のなほふらや我らの山源宗于

同雑中 吹井乃浦水立波のなほふらや我らの山源宗于

後撰恋三 吹井乃浦水立波のなほふらや我らの山源宗于

同恋三 吹井乃浦水立波のなほふらや我らの山源宗于

同 吹井乃浦水立波のなほふらや我らの山源宗于

同 吹井乃浦水立波のなほふらや我らの山源宗于

同 吹井乃浦水立波のなほふらや我らの山源宗于

同 吹井乃浦水立波のなほふらや我らの山源宗于

同 吹井乃浦水立波のなほふらや我らの山源宗于

同 吹井乃浦水立波のなほふらや我らの山源宗于

同 吹井乃浦水立波のなほふらや我らの山源宗于

同 吹井乃浦水立波のなほふらや我らの山源宗于

同 吹井乃浦水立波のなほふらや我らの山源宗于

同 吹井乃浦水立波のなほふらや我らの山源宗于

同 吹井乃浦水立波のなほふらや我らの山源宗于

同 吹井乃浦水立波のなほふらや我らの山源宗于

後拾遺司

詞花冬

詞花恋上

同

同雜上

千載秋上

新古今春

同冬

同炭

同恋

同恋二

同雜

同

同

あはれきく心ざる我恋やれはるねよう心も相換

日くしよむらの船舟敵ふり流るるのちかきさう 大江正言

年ごつてのゆてふ富士はふりもさあねん秋と海さまる 讀人不知

ひねがし神の湯かへるも煙と波とさあねん 平治奉

秋秋ゆはさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく 頭貞

あはれて富士はる板小流月煙りも曇るらん 大後内右大臣

天原のれはふりのよきさくさくさくさくさくさくさく 前大信正藤田

四つ浦は打たれはるあふりはさくさくさくさくさく 赤人

通さくさくはれ煙とさくさくさくさくさくさくさく 前大將頼朝

あはれは煙とさくさくさくさくさくさくさくさく 南 貫之

煙を思ふはねん人さくさくさくさくさくさくさく 九条右大臣

うのほろ烟とねんこのさくさくさくさくさくさく 家隆

世中とんまわるとさくさくさくさくさくさくさく 藤田

凡ゆるひくさくさくさくさくさくさくさくさく 西行

あはれはさくさくさくさくさくさくさくさく 兼平

同恋一

同

同恋二

同恋五

同雜

同

同

同冬

同恋

同二

同

同

同

富士後のさくさくさくさくさくさくさくさく 八道前大將

秋恋のさくさくさくさくさくさくさくさく 前関白

あはれはさくさくさくさくさくさくさくさく 九条右大臣

あはれはさくさくさくさくさくさくさくさく 信実

うのさくさくさくさくさくさくさくさく 仁華

あはれはさくさくさくさくさくさくさくさく 従五位藤原

あはれはさくさくさくさくさくさくさくさく 家隆

あはれはさくさくさくさくさくさくさくさく 藤原教隆

あはれはさくさくさくさくさくさくさくさく 藤原教隆

あはれはさくさくさくさくさくさくさくさく 弁内侍

あはれはさくさくさくさくさくさくさくさく 忠孝

あはれはさくさくさくさくさくさくさくさく 京極朝臣

あはれはさくさくさくさくさくさくさくさく 藤原朝臣

あはれはさくさくさくさくさくさくさくさく 少将内侍

同三

物此録の終の煙とて物法くゆりつゝ心より

清慎公

同五

果さみのも此中いもあつたかほはるの烟はし

讀今不知

同雜上

此録を愛ひつたの事うへに根元をぬく煙は

法下隆舟

同族

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

源兼朝

續古今秋

物此録の片小舟や舟やん舟やん舟やん舟やん

後身羽院

同冬

煙のふいふと下也水とらん舟此留法をいせり

前大納言基基

同族

邪と山のくくをいそくも此流舟此流舟此流舟

藤原光俊

同

此とへ物此流舟此流舟此流舟此流舟此流舟

藤原基政

同

舟とふ物此流舟此流舟此流舟此流舟此流舟

中務卿親王

同恋三

くふも也恋とてふ物此流舟此流舟此流舟

一条院廣法

同

る此流舟此流舟此流舟此流舟此流舟此流舟

正三位知家

同雜五

流して舟のし物とらん舟此流舟此流舟此流舟

土御門院

同雜七

舟此流舟此流舟此流舟此流舟此流舟此流舟

中宮權大納言

同

之流舟此流舟此流舟此流舟此流舟此流舟

中務卿親王

續古今雜

舟此流舟此流舟此流舟此流舟此流舟此流舟

中務卿親王

同冬

舟此流舟此流舟此流舟此流舟此流舟此流舟

信実

同恋三

任小立舟此流舟此流舟此流舟此流舟此流舟

前大納言

同

ふふふも及らん舟此流舟此流舟此流舟此流舟

權大納言

同

くくくくくくくくくくくくくくくくくく

又正内大臣

同雜上

舟此流舟此流舟此流舟此流舟此流舟此流舟

後身羽院

同族

舟此流舟此流舟此流舟此流舟此流舟此流舟

前大納言

續千載卷一

舟此流舟此流舟此流舟此流舟此流舟此流舟

前大納言

同冬

舟此流舟此流舟此流舟此流舟此流舟此流舟

相模

同族

舟此流舟此流舟此流舟此流舟此流舟此流舟

前大納言

同恋

舟此流舟此流舟此流舟此流舟此流舟此流舟

祝部成茂

同

舟此流舟此流舟此流舟此流舟此流舟此流舟

為家

同二

富士山の煙は末の終とてこの舟此流舟此流舟

名山院

同 町物あふふし路のりそく後あひふまをうりか 宣統門院御

續後拾遺^春 高きよも此煙しんくけう公家あゆふ後ちりり 後頼

同物名 片恋と後河の富士あふると秋のひはまのゆか 紀友則

同恋一 ぬふのねふまうていし秋恋ぬふりまをさぬあふさこれ 入道院近出

續後拾遺^恋 つかん少れちのあふまはこん若しき下の煙 鳥家

同 秋恋 雲のたれはれり乃煙はらふふまは 船慶門院承

風雅春三 花や高麗やうり町物あふのを根よさゆる春をせ 前大納言忠実

同夏 因ふ浦乃之縁路と焼ぬる月恋結ぬふ此煙ちりり 清輔

同冬 ちねふまをぬふまも後さんぬれ徳はまの物老 内大臣

同旅 富士の根をゆりまはりそく今秋あふりりの実 藤原行朝

同 吹おるとぬれはる根の秋恋結ぬふ此煙ちりり 前大納言

同恋 つかん少れちのあふまはこん若しき下の煙 鳥家

同恋 ぬふのねふまうていし秋恋ぬふりまをさぬあふさこれ 入道院近出

同恋 つかん少れちのあふまはこん若しき下の煙 鳥家

同恋 ぬふのねふまうていし秋恋ぬふりまをさぬあふさこれ 入道院近出

同恋 つかん少れちのあふまはこん若しき下の煙 鳥家

同恋 ぬふのねふまうていし秋恋ぬふりまをさぬあふさこれ 入道院近出

同恋 つかん少れちのあふまはこん若しき下の煙 鳥家

同恋 ぬふのねふまうていし秋恋ぬふりまをさぬあふさこれ 入道院近出

同恋 つかん少れちのあふまはこん若しき下の煙 鳥家

同恋 ぬふのねふまうていし秋恋ぬふりまをさぬあふさこれ 入道院近出

同恋 つかん少れちのあふまはこん若しき下の煙 鳥家

同恋 ぬふのねふまうていし秋恋ぬふりまをさぬあふさこれ 入道院近出

同恋 つかん少れちのあふまはこん若しき下の煙 鳥家

同恋 ぬふのねふまうていし秋恋ぬふりまをさぬあふさこれ 入道院近出

同恋 つかん少れちのあふまはこん若しき下の煙 鳥家

同恋 ぬふのねふまうていし秋恋ぬふりまをさぬあふさこれ 入道院近出

同恋 つかん少れちのあふまはこん若しき下の煙 鳥家

同恋 ぬふのねふまうていし秋恋ぬふりまをさぬあふさこれ 入道院近出

同恋 つかん少れちのあふまはこん若しき下の煙 鳥家

同恋 ぬふのねふまうていし秋恋ぬふりまをさぬあふさこれ 入道院近出

同恋 つかん少れちのあふまはこん若しき下の煙 鳥家

同恋 ぬふのねふまうていし秋恋ぬふりまをさぬあふさこれ 入道院近出

同恋 つかん少れちのあふまはこん若しき下の煙 鳥家

同旅

同恋一

同雜一

金葉冬

詞花夏

千載冬

續古今恋三

續拾送秋上

同雜秋

後千載冬

續後拾送旅

風雅秋下

新後拾送春上

同夏

新續古今秋二

同恋二

續後續恋五

同雜中

續千載戀三

同雜上

新拾送恋三

新續古今歲

後續恋一

新古今恋三

續拾送冬

新後拾送恋

新續古今秋

同

拾遺書表傷

同

同

昔のやれに春の返りよ日かきあつらひり物よ似て能目法師

休まぬやたんとまきしに傳へてかたき若のやふ元 和泉式部

毛もさきありきりきりけけ國はもとつらね始まるん 上総大輔

ふれ鳥あふのりし風さえてもれ沈水水水 小侍 藤原仲実 朝

ふの沈はまき高浦水さけり白木の心ちもまれ 待賢門院 堀河

なほ多ぬれひの床やあふらん水花のまきやれ沈水 権中納言 經房

津國の毛はあふれ水さけりて際もあれし今昔も 光俊

昔の沈はあふれ水さけりて國の毛もあふれ沈水の物さ 院少将内侍

ふの沈はあふれ水さけりて國の毛もあふれ沈水の物さ 院少将内侍

はふのやの若ぬれ水さけりて國の毛もあふれ沈水の物さ 院少将内侍

あふれもや若ぬれ水さけりて國の毛もあふれ沈水の物さ 院少将内侍

は國乃升あふの若ぬれ水さけりて國の毛もあふれ沈水の物さ 院少将内侍

狐波返あふの煙さけりて國の毛もあふれ沈水の物さ 院少将内侍

ふれぬれ水さけりて國の毛もあふれ沈水の物さ 院少将内侍

ふれぬれ水さけりて國の毛もあふれ沈水の物さ 院少将内侍

ふれぬれ水さけりて國の毛もあふれ沈水の物さ 院少将内侍

はふのやの若ぬれ水さけりて國の毛もあふれ沈水の物さ 院少将内侍

我神小浦は水さけりて國の毛もあふれ沈水の物さ 院少将内侍

秋さけて今もあふれ水さけりて國の毛もあふれ沈水の物さ 院少将内侍

秋さけて今もあふれ水さけりて國の毛もあふれ沈水の物さ 院少将内侍

秋さけて今もあふれ水さけりて國の毛もあふれ沈水の物さ 院少将内侍

秋さけて今もあふれ水さけりて國の毛もあふれ沈水の物さ 院少将内侍

秋さけて今もあふれ水さけりて國の毛もあふれ沈水の物さ 院少将内侍

秋さけて今もあふれ水さけりて國の毛もあふれ沈水の物さ 院少将内侍

秋さけて今もあふれ水さけりて國の毛もあふれ沈水の物さ 院少将内侍

秋さけて今もあふれ水さけりて國の毛もあふれ沈水の物さ 院少将内侍

秋さけて今もあふれ水さけりて國の毛もあふれ沈水の物さ 院少将内侍

秋さけて今もあふれ水さけりて國の毛もあふれ沈水の物さ 院少将内侍

秋さけて今もあふれ水さけりて國の毛もあふれ沈水の物さ 院少将内侍

秋さけて今もあふれ水さけりて國の毛もあふれ沈水の物さ 院少将内侍

秋さけて今もあふれ水さけりて國の毛もあふれ沈水の物さ 院少将内侍

秋さけて今もあふれ水さけりて國の毛もあふれ沈水の物さ 院少将内侍

家隆

俊頼

藤原資明

源親長

能善法師

定家

同

伊豆

元輔

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同旅

新撰卷五

静範法師八幡の文乃と云くして伊豆國小浜に
て之の年正月小浜の大貳之位乃小浜に居りし
二月也少々の杜乃部之人を遣ひて此の處に
子紙あり杜乃部に居りし人との禮も如く
相換

古今雜上

古今大奇所

後撰恋三

同恋六

捨遣恋四

同雜恋

金葉雜上

新後撰雜上

續千載冬

新捨遣尺教

戀瀬川

常陸

後よ又あな夜とあな夜のうそはの舟をくちさ
傾子内親王

續後捨遣恋

恋瀬川の波かゝる水と神水ならぬと云く
大江政国女
水の上乃泡と流るる恋瀬川を流れて地心は
武元院道

金葉冬

衣のよは浦風もくしてこゝろ見山の雪より
源頼朝朝臣

夜開

陸奥

後撰雜

詞花別

續後撰冬

續捨遣旅

同

續捨遣恋五

續千載旅

新千載旅

そららちねおらるる人方小衣衣開とわるといふ也
讀人不知
流るるよはは物心陸奥の衣をききけりしに
和泉式部
風をらよしの衣は笑ちの福をねむる月やみるん
順徳院
初めて立ゆきけりし衣のせよと熱や
大藏卿行宗
後人の衣乃開のてぬくと云くはく日さねん
衣笠内大臣
初めてし金如よの独祿の衣は開と云くはく
前参議定
後祿する衣の衣を守ると云くはく
津守国助

一海子卷五

二十九卷

新古今別 藤原親綱朝臣 同恋 夜河 同

夜河

同

新古今別 夜河のうらもれ閑く人志の涙とよはれ我ながら 寂照法師

新古今別

新勅撰恋

新後撰恋

新後拾遺中

新千載下

恋山

出羽

恋山の山をのきと葉を家かて入初るよとわが神祇 祇神伯頼仲

越白根

加賀石川郡

後撰冬

千載春上

越中

但前後三ヶ国共云

後撰拾遺恋 越中の山をのきと葉を家かて入初るよとわが神祇 祇神伯頼仲

越海

越中

千載春上 越海 越中の山をのきと葉を家かて入初るよとわが神祇 祇神伯頼仲

越路浦

古志郡

玉乘旅

越山

高根

越山 越前中後三ヶ国より越中も讀侍 聖聖徳太子云

拾遺冬

我獨あはれ山は小く雪はふりては 藤原佐忠朝臣

見鳴

備前 見鳴郡

拾遺別

同恋四

新古今冬

後後撰冬

同旅

波乃上のみとこ 鳴の鳴るは 金岳 讀人不知 後徳幸左大臣 鎌倉石文臣 式内親王

